様式3

学 校 番 号 67

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

（定時制課程） №1

福岡県立大川樟風高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	大川市内唯一の高等学校として、「志学・創造・貢献」の校訓のもと、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される魅力あふれる学校づくりを目指すとともに、地域社会や地域産業の第一線で活躍できる有能な人材を育成する。また、「十人十色の未来と笑顔」のコンセプトのもと、樟風生としての誇りと自信を持ち、生涯にわたって自己の実現を目指す生徒を育てる。		A
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
【成果】 ・一人ひとりの生徒に寄り添い、家庭と連携を図りながら手厚い指導を行うことで、コロナ禍においても、落ち着いた教育活動を継続して実施できている。 【課題】 ・校種間や地域との連携を図り積極的に情報発信を行うとともに、生徒募集につなげる。 ・多様な背景を持ち、課題を抱える生徒の学びを保障するための組織的な生徒理解・相談体制をより推進する。 ・コロナ禍における就業体験等キャリア教育の充実を図り、進路保障につなげる。	1 ICT教育の推進 （授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道。学習支援アプリの利用）	○確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫改善 ○ＩＣＴ機器を活用した授業の工夫改善 ○ＩＣＴ機器に対するスキルアップ ○達成感のある授業	
	2 キャリア教育の更なる充実 （進路の手引きの有効活用、着実な進路実績）	○段階を追ったキャリア教育の推進 ○進路の手引きを活用した積極的な進路指導 ○職場訪問や就業体験等を活用した就学、就業の両立 ○資格取得に向けての組織的な指導	
	3 魅力ある活動の充実と校種間連携の推進 （部活動と生徒会活動の活性化、資格検定取得）	○学校行事への積極的な参加と生徒会活動の充実 ○部活動参加率・資格検定合格率の増加 ○部活動の活性化と中学校や地域との交流	
	4 自分磨き （笑顔で挨拶、爽やかな清掃、ボランティア活動）	○人間としての在り方生き方に係わる道徳性の涵養 ○安全に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 ○礼節指導による規範意識の確立 ○いじめや差別のない人権教育の徹底 ○情報交換を徹底し、不登校等への組織的で適切な対処の充実	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	出席率の向上に努め、遅刻者数を減らす。さらに、中途退学者の減少を目指す。	学年・授業担当者と連携して、「授業に出るのは当たり前」という状況をつくる。	A	A	B	授業については、学校見学に来られた方に感心していただくことも多く、生徒は授業に真剣に取り組んでいる。中途退学者を出すことなく、皆勤賞・精勤賞も5名以上を達成することができるなど、落ち着いた学習環境を実現できていると考える。来年度もこの状態を保ち、さらに高められるようにしたい。
		出身中学校や家庭との連携を密にする。	A			
		出席率の達成目標を、全学年平均で９０％とする。「中途退学者数を３人未満」「皆勤賞・精勤賞を５名以上」の実現を目指す。	A			
	新学習指導要領に基づき、学習活動の充実に努め、基礎学力の定着を図るとともに、個々の生徒の特性に応じた学力の向上を目指す。	各教科担当が基礎学力の充実に重点を置いた指導を行うとともに、総合的な探求の時間等を利用して、主体的で深い学びを実現する。	B	B		「知識・技能」の習得と「思考力・判断力・表現力」を育成するために、国語は全ての学習の軸となる教科と考える。その国語の常勤職員が不在の状況を解消する必要がある。漢字検定での合格者を出せなかったのも、そのことが大きい。来年度は国語の常勤職員を確保し、今年、充分とは言えなかった基礎学力の定着、向上のための取り組みを充実させたい。
		「生徒の基礎学力定着に向けた指導の改善・充実に係る取り組み」での得点率の向上を図る。	B			
		漢字検定、簿記検定などの各級の合格者を増やす。	C			
生徒指導	生徒同士が共に学び、支え合う関係づくりに努め、授業規律を確立する。	生徒会が中心となり、「安心安全な学校、いじめのない学校」づくりに向けた話し合いを行い、生徒への啓発に取り組む。	B	A	A	全職員で清掃や授業に真剣に取り組む態度を養成し、時間を守り共に学ぶ環境づくりを進めた。各アンケートも確実に実施し情報交換を積極的におこなった。生徒会を含めいじめや嫌がらせのない安心な教育環境づくりに取り組みたい。
		教務部・学年・授業担当者と連携し、清掃や授業に取り組む態度を養い、時間を守り共に学ぶ環境をつくる。	A			
		「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」を毎月実施し、生徒の意識や動向を調査する。	A			
	学習環境の点検・整備を行い、生徒の安全確保に努める。	全日制・中学校や消防署等関係機関と情報交換及び情報収集に努め、講話、体験的活動や校外補導等、連携・協力して取り組む。	B	A		登校時の校門指導や給食時間など、職員から積極的に挨拶や声かけを行った。今後も地道に続けたい。行事関係も感染対策を図りながら安全に行うことができた。行事への出席を含め、今後はより一層生徒の運営への関わりを図りたい。
		職員で分担して、毎日、登校指導及び校内巡回を行い、安心で安全な環境をつくる。	A			
		登校時の校門指導や給食時間等を利用して積極的に挨拶や声掛けを行う。	A			
進路指導	卒業生全員の希望進路の実現に努める。	進路講話やHR、相談習慣を活用し、進路実現に向けた意識の高揚と一人ひとりの進路希望の把握に努め、希望進路の実現を目指す。	A	A	A	年3回の相談週間では、全学年に進路についての相談や進路実現に向けた計画的な取り組みを実施できている。アルバイト就業率が僅かに減少しており、就業体験の重要性と共に継続して、アルバイト就業を奨励していきたい。
		ハローワークとの情報共有を図り生徒の希望に沿った求人票を提示する。	A			
		卒業予定者の希望進路実現１００％を達成する。	B			
	進路関係行事への参加率向上を図る。	進路ガイダンスの充実を図り、生徒の希望に沿った校種に講師を依頼する。	A	A		第1回進路ガイダンス、第2回卒業生講話ともに充実しており生徒の参加率も良好である。次年度以降も継続し、ガイダンスでは体験学習等をお願いする等、更なる工夫と進路意識の高揚を図っていきたい。
		本校卒業生に進路講話を依頼し、在校生の進路意識の高揚を図る。	A			
		進路関係の行事について意義や実施日の早期連絡を徹底し、参加率向上を図る。	B			

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	出席率９０％以上は、本校定時制の良き伝統である。この良さを継続してほしい。 中学校の時に不登校であった生徒でも本校の定時制に来ればこれだけの出席率になり基礎学力が定着することも伝えてほしい。
A	様々な生徒が在籍している。アンケートの実施や家庭との情報交換については、しっかり行ってほしい。
A	進路ガイダンスや進路講話などの行事を定時制でも行っており、生徒のために今後も続けてほしい。特に卒業生による進路講話は在校生にとって貴重な取組である。

（定時制課程） №2

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
保健	食育の充実を図り、給食率向上に努める。	食育に関する講演会を計画・実施し、食生活を見直すとともに、食の大切さについて学ばせる。	A	A	A	食育の健康教室にて、講話だけでなく、簡単な調理の演習も実施することが出来た。今後は状況を見ながら、生徒全員での演習を検討していきたい。また、給食委員会では、年3回のアンケートを実施し、定期的に生徒の声を反映することが出来た。毎日の給食献立・食育情報の掲示にて、生徒の食への関心や意識を高めることが出来た。これらは今後も続けていきたい。	A	食育や性教育などしっかりと行事を行っている。また、給食アンケートの実施は生徒の嗜好などを知ることができ、大変良い取組である。
		給食委員会を年３回開き、給食施設の設備点検の安全確認、献立の充実に努める。	A					
		食に関する意識の高揚を図るため、給食アンケートを年２回実施して問題の把握に努める。	A					
	健康で安全な学校生活送るために保健指導の徹底を図る。	保健だよりの発行等を通じて保健情報を提供する。	A	A		保健だよりの発行、全体での保健指導、来室時の生徒への指導を行い、生徒へ情報を発信することが出来た。今後はさらに力を入れて取り組みたい。外部講師の講話で、たばこやアルコールについても触れてもらうことで、生徒の意識の向上を図った。今後も保健指導の際には積極的にたばこ・アルコールの害について周知していきたい。		
		専門の講師を招いて健康教室を計画・実施し、食育、性教育、薬物乱用等の保健指導を行う。	A					
		タバコやアルコールの害について、保健指導に努める。	B					
研修	指導力向上のための職員自己研鑽の充実に努める。	全・定合同の職員研修会の実施に向けて全日制研修部と内容の検討、日程の調整を図る。	A	A	A	全日制の研修部の先生と連携をとりながら、全定合同の研修会を円滑に行うことができた。また、若年教員3年目の研究授業及び研究協議を全日制の教科担当者の協力を得て行うことができた。来年度以降も研究協議の充実に向けて、より効果的な時期、形態を検討する。	A	授業アンケートについて行い、先生方の授業改善をお願いする。
		できるだけ早い時期に研修内容、講師を検討する。（全定合同職員研修年６回・人権同和特設年３回・いじめ対策防止委員会）	A					
		定時制職員研修会の更なる充実を図る。	A					
	生徒の学習意欲の向上を図る授業の工夫に取り組む。	職員会議で実施しているいじめ対策防止委員会を職員研修の場と位置づけ、学習意欲の向上に向けた授業の取り組みに有効活用する。	A	A		授業アンケートは1学期終了時期に非常勤講師の先生方の教科を含む全教科で実施を図った。しかし、実施できていなかったり、締切までに提出できなかった職員が見受けられ、すべてのアンケート結果を報告することが出来なかった。今後は締切厳守の強化を図る。		
		１学期に授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業づくりの参考とする。	A					
		研究授業月間を実施するとともに、研究協議の充実を図る。（年１回の授業アンケート、研究授業、充実した研究協議会）	B					
図書	活字や映像、音声などすべての面から図書に親しむ。	「読書の日」等をきっかけにいろいろな書物を紹介する。	A	A	A	本年度は「読書の日」の朗読を実施することができ、また芸術教室の映画鑑賞により、原作等を読み返すなど図書に親しむきっかけとなった。今後も「読書の日」の朗読をきっかけに多くの書物を紹介するとともに、多くの生徒が図書室を利用するような工夫を行う。	A	読書の日等を活用しながら生徒たちが本にふれる取組を今後も続けてほしい。
		図書室の利用率を５０％以上実現する。	A					
		図書の貸し出し数について月１０冊を目指す。	B					
	自分の考えや思いを、言葉で表現できるようにする。	各分掌や教科、ＨＲ担任と連携し、芸術教室での創作活動や生活体験発表会等を通して、作文力、自己表現力をつける。	A	A		生徒の中には、自身の考えを文章にまとめたり、相手に伝えることに抵抗を感じている者も少なくはない。国語科の授業、ホームルーム等の中で作文を書く機会を増やし、自身の考えをまとめることに慣れさせていきたい。また、1人1人の生徒の実態に合わせた発表の場を設けることで、相手に自身の考えを伝える力を習得させたい。		
		校内生活体験発表大会に向け、１人８００字程度の作文を書く。	A					
		希望購入図書のアンケート等を通して生徒の読みたい本を把握する。	A					
情報化推進	情報機器を活用する環境整備を行う。	新規導入された、定時制用タブレットの積極的な活用を促す。	B	A	B	ICT支援員と連携を取りながら、教科や特別活動においてクロームブックの使用頻度を上げるような研修や支援の活動を充実させていきたい。また、コンピュータ教室の活用に関しても、PCの利点を活かしてた授業展開について支援や助言等を可能な限りおこなっていきたい。	A	パソコン教室も地域に大きな貢献である。生徒や先生方のスキルアップのため、ICT教育をしっかり実践していることが分かった。また、ホームページの更新もしっかりと行われている。
		電子黒板やパソコン室の活用を職員に呼び掛ける。	A					
		研修部と連携をとりながら、ＩＣＴ教育に関する研修会を実施する。	A					
	「樟風講座パソコン教室」等を通して地域住民の方にＰＲ活動を行う。	学校開放講座に関して、全職員・生徒と協力する。	B	B		昨年より、CMS言語からワードプレスによるWEB言語に変更となったことで不慣れなこともあり、ホームページの更新頻度が低かったこともが反省点である。来年度は管理業者と密な連携をとり円滑なアップロードに心掛け、ホームページ更新頻度を上げ、外部へのPR活動を促進したい。		
		ウェブページの作成更新は全日制職員と協力していく。	A					
		ウェブページ更新を年間20回以上行い、定時制入学希望に繋がるPR活動を行う。	B					
人権・同和教育	人権尊重の定着・習慣化と安全で安心できる学習環境づくりに努める	挨拶や声かけを通して講師と生徒のコミュニケーションづくりに努める。	A	A	A	ICT等の活用により、どの学年もより視覚的に効果が得られる学びの機会が増えている。具体的には、「あおぞら」「KARA FULL」の活用また教育事務所での教材を利用しての授業の実施が見られた。今後は身近な題材を取り上げるなどし、わかりやすく生徒の心情に響く授業展開を進めていきたい。	A	多様な生徒の中での人権教育について、いろいろな面で配慮しながら進める必要がある。
		年3回、人権教育教材集「あおぞら」と「かがやき」を活用した人権教育特設授業を実施する。	A					
		特設授業では学習プリント等を活用し、生徒が積極的に参加できるよう工夫する。	A					
	いじめの未然防止に努める。	「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」から生徒の実態把握に努める。	A	A		課題として、全職員の人権感覚の向上があげられる。人権担当者が全ての研修会に参加するのではなく、全職員が年に1度は校外での研修会に参加してもらう。また生徒の人権意識が育たないのは教師の責任とも言える。先ずは、平等に接している姿を見せるため、生徒への呼名を全職員が統一することから始める必要がある。		
		気になる生徒の情報を早期に全職員と共有し、いじめや差別のない学校をつくる。	A					
		定期に担任や生徒指導主事との会議を設け、情報の共有を図り、いじめの未然防止に努める。	A					
1年	基本的生活習慣を確立させる。	個人面談でＨＲを活用して、生徒の家庭状況・生活実態等を把握する。	A	A	A	毎月1度のSC来校時に、生徒全員の聞き取りを実施し、SCとの連携を図り生徒理解に努めた。また、生徒への声かけを積極的に行い、生徒の変化に気づくよう心掛けた。今後も同様に取り組んでいきたい。	A	基本的な生活習慣について身についているようである。このまま継続してほしい。
		４年間の高校生活を見据えた目標を持たせ、充実した学校生活が送れるよう指導する。	A					
		皆勤賞、精勤賞者を目指す。	B					
	基礎学力を定着させる。	授業担当者と連携して、中学校の復習を含めた基礎学力の定着を目指す。	A	A		考査前には対策プリントを準備をし、生徒が不安を抱かずに考査に取り組んでもらえるよう意識した。今後は、考査前に限らず普段から個別に生徒対応に心掛けたい。		
		個人面談、ＨＲ、情報交換会等で生徒の実態を把握し、中途退学をなくすとともに、全員の進級を目指す。	A					
		漢字検定等の資格取得を目指す。	B					

（定時制課程） №3

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
2年	基本的生活習慣の定着と出席率の向上による全員進級。	家庭と連携を密にし、情報を共有することで、生徒の変化にいち早く気づき、早期発見・早期対応を心掛ける。	A	A	B	生活アンケート等や三者面談以外にも、個人面談や保護者連絡を密にし、生徒理解に努めた。生徒によっては出席状況が心配な生徒もいるので、確認する機会を増やし、全員進級を目指したい。	A	出席状況に不安があったが、全員進級と聞き、目標は達成できている。
		HRや授業を通じて、生徒一人ひとりに居場所があるようなクラスづくりを心掛ける。	A					
		出席率９０％以上、全員進級を目指す。	B					
	アルバイトを奨励し、学業との両立を目指す。	アルバイト情報や現在の就労状況を収集し、生徒に提示・助言する。	B	B		将来の進路に向けては年度当初より具体的に見えてきたが、現在のアルバイトについて4月当初と同じ職場に勤めているのは7名中2名である。今後もそれぞれの状況を確認し、指導・助言に努めたい。		
		キャリア教育を充実させ、ＨＲ等で就業についての指導・助言を継続する。	A					
		アルバイト就業率１００％を目指す。	B					
3年	全員進級と３修制卒業。	定期的な個人面談等で生徒の変化について早期発、見早対応を心掛ける。	B	B	B	生徒の中には、成績、出席状況において進級や卒業が危ぶまれる者がいた。出席状況が思わしくなく、卒業が難しくなってくる生徒への指導、または、遅刻早退による欠課時数が増えている生徒への指導を怠らない。今後とも家庭や各教科担当と連携し、生徒との信頼関係を深める。	A	3年生についても全員が進級と聞き、当初の目標は達成できている。また、3修制の生徒も2人いると聞き、しっかり指導ができている。
		家庭との連携を密にし、欠席、遅刻、早退をなくす。	B					
		進級率１００％を目指す。	B					
	進路についての目標を明確にし、進級や卒業に向けての意識の高揚を図る。	卒業後の進路について早期に目標を決定させる。	B	B		来年度は卒業学年となるため、はっきりした進路目標をもたせることによる動機付けを行う。そのためのコミュニケーションに心掛ける。また、進路指導と通して学習意欲の向上と進路実現へ向けた指導助言や支援体制の充実を図っていきたい。		
		進路実現に向けて、基礎学力の定着について主体的に取り組ませる。	A					
		キャリア教育の充実、HR等で就業についての指導・助言を継続する。	B					
4年	進路についての目標を明確化させ、個別の進路指導を実施する。	卒業後の進路について目標を明確にさせ、個々に合った進路実現を目指す。	A	A	A	進路について具体的な時期と準備するべき事項を合わせて理解させるなど、早期に準備する必要がある。 受験に臨むにあたり精神面での準備についても丁寧に説明が必要である。	A	学校からの就職を希望していた生徒は、全員決定したことを聞き、しっかりと進路指導ができている。今後は進路が決まっていない生徒への支援をお願いしたい。
		進路実現のためのアドバイス、面接練習等を実施し、希望進路の実現を達成する。	A					
		希望の進路実現１００％を達成する。	B					
	基本的な生活習慣を確立し、登校率の向上と全員卒業を達成する。	個人面談の実施や保護者との協力体制の確立・維持、早期連絡を実施し、欠席、遅刻等を減少させ進路実現と全員卒業を達成する。	B	A		食事、運動、休養のバランスの取れた生活の重要性について理解させ、卒業後の生活習慣やストレスの発散方法等について理解を深める必要がある。		
		HRや総合探求の時間等を活用し、生徒一人一人の居場所（活躍の場）のあるクラスづくりに努め、落ち着いた学習環境を準備する。	A					
		クラスの出席率９０％と全員卒業を達成する。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 魅力ある学校づくりと生徒募集
- 個別最適な学習指導（生徒一人ひとりに寄り添う教育）
- 地域との更なる連携
- 魅力ある定時制の広報活動
- 生徒一人ひとりの進路保障

評価項目以外のものに関する意見